



LIGHT HOUSE

ライトハウス

http://www.cfi.gr.jp e-mail webmaster@cfi.gr.jp

■本部事務所 〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 1-16-13
TEL 03-3717-2711 FAX 03-3717-2721

■チャペル 〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-46-3

郵便振替口座 00120-6-170857 みずほ銀行 渋谷支店 普通 2382850 (ライトハウス)
C1708 『天地を造られる前から』

[今月の聖書]

「また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている。」 (エペソ 1:19)

「それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。」 (エペソ 1:10)

「それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかかめ、また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。」 (ピリピ 2:10-11)

「あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていただいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、」 (エペソ 1:18)

「この教会はキリストのからだであって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかならない。」 (エペソ 1:23)

お元気でお過ごしでしょうか?今年はずいぶん異常気象と言われるように厳しい暑さにもまわっていますが、いかがお過ごしでしょうか?さて、今月のテーマは「天地の造られる前から」という遠大な神の世界ですね。人間は誠に小さな存在ですが、世界や宇宙を考えることができる生き物です。また、過去、現在、そしてまだ体験していない未来をも語る事ができる動物です。その意味において神によって造られた者と言えるでしょう。そして聖書はひとりひとりの存在は予め、神の計画の中にあると言っています。「天地の造られる前から」(エペソ 1:4) 私たちを選んで下さったとありますから、驚くばかりの恵みです。この神の民の選びは「キリストにあって」なされるのです。エペソ人への手紙はパウロが晩年獄中で書いたと言われていますが、「ユダヤ人教会と、異邦人教会があるのではなく、キリストにあって『一つの教会』を見ることを神は望んでおられる」と確信して、すべての人種、民族、地域への伝道に命を捧げました。まさに 2000 年前に見た幻の通りになったのです。個人的なことですが、今月古希を迎えた私も、反発しながらも、ついにキリストを受け入れ、伝道者となって 50 年、山坂を乗り越えて来た道程をかえりみますと、神のご計画の中に導かれていたのだと、感謝あるのみです。神のご計画を知る時、明日への信頼(信仰)が湧き上がって来ます。ここに「信仰に生きる道」(ローマ 1:17)があるのですね。

神の祝福がありますように。

(お知らせ)

- * 8月16日(水) 11:00 CFI 賛美の集い(田園調布チャペル)
- * 8月11日(金) 16:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会(淀橋教会)
- * 「メサイア 2017」(本年5月3日紀尾井ホールにて収録)のCD(2,000円)、DVD(3,000円)が少し残っています。素晴らしい記録ですので是非お求め下さい。
- * CFIのメッセージの拡大の為に新しいパンフレットを作りました。どうぞお友達にご紹介下さい。ご連絡下されば何部でもお送りいたします。
- * (集会予告) 9月9日(土) 19:00 「秋のチャペルコンサート」 10日(日) 10:30 伝道礼拝 日本キリスト教団土佐教会(〒780-0863 高知市与力町 5-18 TEL 088(872)7127)

故 浅井 あい(神奈川県)

神様がわたしになされたこと」(第1回)

ライトハウスと 40 年以上の交わりを持って来ました浅井愛姉が 4 月 4 日、92 歳で天に召されました。16 年前に証し集を発行しましたが、その一部を編集してお送ります。時代の嵐のなかでキリストの光に導かれた人でした。 牧師 小田彰



暗い小学生

私は大正十四年一月二日、東京都北区王子町に生まれました。小さい時から心の中に、はっきりと穴があいていて何かすべてがむなしかった。

小学生の時映画を見ていて、人間が汗を流し疲れてよろめきながら、畑を耕している。牛も苦しそうに鋤をひいていると、その鋤の先で、『みみず』が体を切られて死んでゆく。このシーンが、すごく心にやきついて、やり切れない気持ちを捨てることが出来なかった。親を見ていても、唯夢中で働いているだけ、何の喜びも伝わってこなかった。

人間は何の為に生きてゆかねばならないのかと暗い小学生でした。友達はキャッキョとはしゃいでいるのに、それについてゆけない自分がいやでした。

戦火の中、夢中で仕事

それから女学校、就職、敗戦。戦争で男性がみんな戦死し男性のいない職場で、二十歳代の女性が夢中で仕事をしなくてはならなくなり、食糧の無いときに徹夜、徹夜の連続。空襲警報で地下室に逃げ込み、空襲が終わると又五階までトコトコ上がって仕事をするという毎日でした。

その頃、東京都は空襲で全滅を防ぐため庁舎をはなればなれ、方々に分散して仕事をしていました。私は今の日比谷公会堂の五階が職場でした。昼ごろ、公会堂の玄関に爆弾が落ち十メートル位の穴が開きビルがすごくゆれました。銀座は火の海でした。それでも空襲が終わると、トコトコ、五階に上がり仕事でした。

徹夜して、朝食べるものもなく粉末のみそを、お湯にといて飲むだけの食事でした。殺しても死なないと、自他共に自分の健康に自信満々、私がいなければ職場はだめになってしまうと言う思い上がりで働いておりました。

結核・一生懸命働いた私が

ある時、隣に机を並べている男性が毎日毎日、何回となく体温を測り、三十七度あると言って心配しているのです。私はその体温計がこわれているのではないかと、私が自分の体温を計ると、毎日三十七度三分で、私の方が、体温が上なのです。

そうしたら、医師が「あれ、ここが変だ、肺がおかされている」と言われました。健康を誇っていた私は床がグラッと動いた様に見えたのが、今でも忘れられません。

そしてその時代、この病は、安静、安静、ただ寝ているだけ。毎日毎日寝るひまを惜しんで働いていた人間が、天井を見つめて寝ている生活。治るのか治らないのか、何時迄、この先寝ていなければならないのか。

悶々の生活、栄養と安静しかうつ手はないのに、食欲はなくなる、夜は眠れないと、ノイローゼになりました。

職場の同僚達も心配して入院させた方がよいのではと、下落合の和田病院に入院しました。

毎日毎日、なぜ真面目に一生懸命働いてきた私が・・・と泣いてばかりいました。

一つの詩・ああ神様はいらっしゃる

お隣のベッドに牧師さんの奥さんが居ました。毎日毎日泣いてばかりいる私に一つの詩を見せて下さいました。

「我等、此世に生まれしは 我が意を世にはる為ならで 神の恵みを受けん為 その御旨をばなさん為なり」

その時、神様もな一人にも知らない私が、ああ、神様はいらっしゃる。人間は自分勝手、思うまま生きるのではない、神の恵みを受け御旨を行う為の存在であることを知りました。

自分の人生は自分で計画して自分で歩むものだと思い込んでいた私はびっくりしました。そして幼い時からポツカリあいていた心の中の穴がパッと消えました。

それから心も落ち着き、静かに療養に励むようになりました。(あとでわかったのですが、その詩は内村鑑三先生の詩でした)

聖書の言葉

ある日また療養雑誌を読んでいたたら、欄外に小さな字でこんなことが書かれていました。

「神は真実なれば、汝等耐えること、あたわぬ程の艱難にあわせ給わず、これと共に逃れの道をそなえ給う」

びっくりしました。私の限界を御存知の神様がいらっしゃる。

このことがあって約二年余りが過ぎ、教会に行くようになり、そのお言葉が聖書の中に書いてあったのには本当にびっくりしました。

私がまだ、キリスト教のキの字も知らなかった時、御言葉を私に与え「しっかりなさい」と私を導いて下さったのでした。何と有り難いことかと、心より感謝致しました。 (続く)